

ワカモノの挑戦

～インターンへの扉を開くまでの挑戦記録～

2022



ワカモノたち ~永遠に生きられるなら?~



しのづか じょう
篠塚 丈
今の寿命+10年くらい
生きたら来世へGo!



ふじしま かずと
藤嶋 和音
・未来の技術の
進歩を見る
・色々な楽器を
マスター



きたみ はるか
北見 陽香
・やりたいことを1日
1個ずつ達成
・自給自足の生活



つねがわ たくま
経澤 拓真
ずっと寝ていたい



うえの たくま
上野 拓真
世界中を旅行したい

暖かい勇気を持って一歩前に行こう

前を見て進む
には周りの人の協力が不可欠
向き合っていくなかで
いろいろな出来事が起きる
てを取り合って
歩くこと、それは
きっとためになる
出せる成果はきっとある
そう信じて進み続ければ
うえを向く勇気が湧いてくる

皆さんはお住まいの地域のNPO・市民活動団体をご存知ですか？日本にはなんと5万以上のNPOが存在しています。この数字はコンビニエンスストアの数と大差がないそうです。自宅近くのコンビニは知っているけど近くで活動しているNPOは知らない、そんなことを思うかもしれません。

本冊子で紹介する内容は身近な地域でインターン活動を行った「ワカモノ」の記録です。ぜひご覧になって、気になった方は本プログラムやボランティア活動に参加してみませんか？

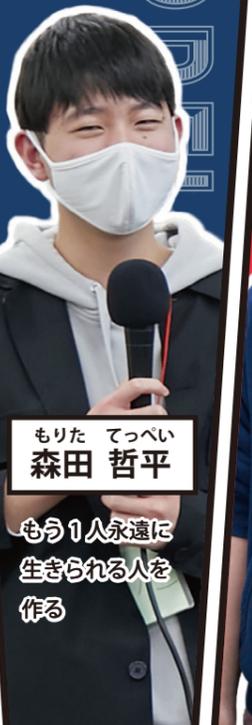
NPOで約半年間、インターン生として活動したワカモノを紹介しています。インターンシップの活動を通じてどんなことを感じ、どんな変化があったのか、詳細は4ページから掲載していますので、ぜひお読みください。



みやかわ かいせい
宮川 快晟
・色々な場所に住む
・働いて億万長者になつたり、ぐうたらしたり
色々な方向で生きる



いしざき しおり
石崎 栞理
・やりたい職業に全部就く
・2回ぐらい結婚して子どもをたくさん産む



もりた てっぺい
森田 哲平
もう1人永遠に
生きられる人を作る



ささい みあん
笹井 美杏
やりたいことをやる
(今とあまり変わらない)

ワカモノの挑戦 2022 [目次]

	ワカモノたち	01
Chapter.1	プログラムを知る	02
Chapter.2	サポートメンバー	03
Chapter.3	ワカモノの挑戦の記録	04
Chapter.4	ワカモノたちの1年の歩み	22
Chapter.5	そして成果発表会へ	24
Chapter.6	アンケート結果	26
Chapter.7	ワカモノに向けて	28
Chapter.8	未来のワカモノへ	29

自ら考え、選ぶことができる力をつけた人材が育つこと

このプログラムは、高校生・大学生・大学院生までのワカモノが約半年間、地域のNPOでインターン生として活動します。2014年度より実施し、プログラム9年目となる2022年度は、9名のワカモノと8つのNPO・市民活動団体が参加しました。本プログラムでは左記の3つを目的にしています。

- ① ワカモノが自ら考え、自ら学び、自分の道を選ぶことができる力を身に付けること
- ② NPO・市民活動団体の組織基盤を強化すること
- ③ プログラムを他地域に展開すること

プログラム概要

対象…高校生・大学生・大学院生（概ね30歳未満）
 期間…2022年8月7日（日）～2023年2月28日（火）
 費用…活動にかかる交通費や食費等は自己負担 ※活動1時間あたり400円の活動奨励金があります
 活動先…神奈川県内で活動するNPO・市民活動団体

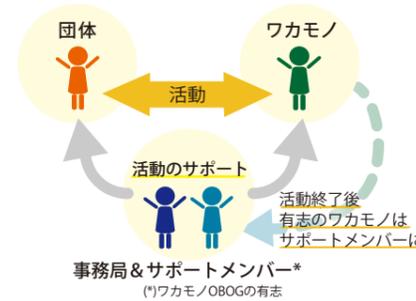
特色1：2つのコース

ワカモノコース
 50～100h
(定例会等の時間を含む)

高校生コース
 35～80h
(定例会等の時間を含む)

ワカモノコースと高校生コースの2つあります。高校生コースは活動時間を短縮したことで、活動と学業との調整をしやすくしています。また、継続して活動に取り組めるよう、活動1時間あたり400円の助成を行います。

特色2：サポート体制



ワカモノと団体が活動しやすいよう、事務局及びサポートメンバー（OBOGの有志）が活動のサポートをします。サポートメンバーを次ページにて紹介しています。

NPOとは？

NPOとは「Non-Profit Organization」の略称で、日本語では「民間の非営利組織」と表現します。株式会社等の「営利」を目的とする組織とは異なり、収益を社会課題を解決するための事業に活用して取り組む組織です。社会の多様化したニーズに応え、社会や地域の課題解決に向け、様々な分野（文化、環境、教育、まちづくり、国際、福祉等）で活動をしています。また、NPOは「産学官民」の「民」の部分を担当する存在として地域でも注目されています。最近では「協働」という新しい形のパートナーシップで、NPOをはじめ、企業、学校、行政等と連携する事例が増えています。また、災害などの際にそれぞれの分野で力を発揮するボランティアをコーディネートする役割も、地域のNPOには求められています。

今年度は本プログラムのOBOG 8名がサポートメンバー（以下、サポメン）として活動に参加しました。サポメンの活動内容は主にワカモノ定例会などのイベント企画やワカモノの相談などのサポートです。皆さんがインターン活動に参加すると、もしかしたら出会うかも...!?

山本千晴

他のインターンでは味わえない体験を作り出せるか、を心がけていました。サポメンの活動を通して、自分のアイデアを形にする面白さや大変さを感じることができました。

相原美月

私は今回初めてのサポートメンバーでした。自分もワカモノのみんなに負けぬように成長したい！と思いながらサポートメンバーとして参加しました。

中村渚

SNSを運用しています。楽しそう！インターンやってみたい！と思ってもらえる発信、投稿を意識していました！少しでも多くの方に見てもらえると嬉しいです！

小山優子

1期生としてこのプログラムに参加し、今年でサポメン歴7年になりました。毎年個性豊かなワカモノに参加してもらい嬉しく思います。ワカモノ達の勇姿をぜひご覧ください！

酒井彩良

自分が成長し続けられる場所であり、誰かの成長を目の当たりにできる場所でもあります。毎年個性豊かな面々に出会えて楽しいです。つまり、私にとってサポメンとは…ただの趣味です！

小島奈々

「何か始めてみたい！」を応援できるインターンになるようサポートしてきました。それぞれの足掛かりになれば幸いです。

神藤夏美

このプログラムに挑戦するワカモノが、参加してよかったと思えるような楽しい企画づくりや、アットホームな雰囲気づくりを心がけて、今年度も頑張りました！

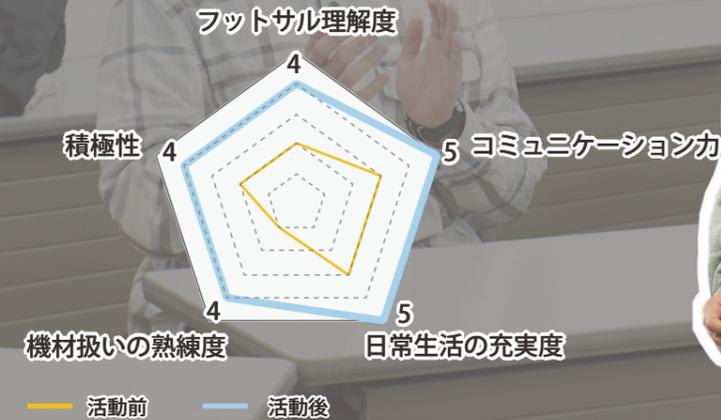
金子知史

サポートメンバーとして、活動に参加するNPOとワカモノの関係を注視し、ワカモノに充実した有意義な活動期間を過ごしてほしいと思いながら活動しています！

うえの たくま
上野 拓真 (東海大学3年)

活動内容：小学生向けフットサルのコーチのサポート
印象に残っている言葉：誰のお父さん？
(スクールに通っている子どもに間違えられた)

何でもやってみる



参加動機

先輩からの紹介というのもあり、大学3年生の夏でこの時期に何もやらなかったら、大学でもしなないで終わるなと思ったり、また、学生の間でしか活動していなかったの、大きいコミュニティでしか活動していなかったの、大きいコミュニティで活動もあると聞いて参加しました。

活動中のエピソード

活動中はずっと同じ曜日に参加していたので、自分でも**選手の変化に気づける**ようになったことが印象に残っています。9月くらいからずっと木曜日に活動していて、2月の後半には選手自身のプレーの幅が広がっているのも気づけましたし、同じメニューでもコーチが何を目的にしているのか、というのを自分自身で気づけるようになったというのが活動中のエピソードです。

挑戦できたこと

藤嶋は同じ大学のゼミなので元々知っていましたが、成果発表会の準備等では普段関わらない年代の高校生と多くかかわるように意識していました。積極的に話しかけたり、話しかけられてもそこで終わらせろんじやなくて**盛り上がるようなコミュニケーションを意識**していました。せっかくこのインターンに参加したので、できるだけ幅広く関わってみようと考えました。普段は友達という方が好きだけど関わってみて楽し

かったです。コミュニケーションだけでなく積極的に色々なことに参加してみました。連絡や意見出しを適当にやっていたこともありましたが、しっかりしないといけないなど思いました。

得られたこと・成長したこと

得られたことは、普段関わらない人と関わったことでその人たちの**考え方を吸収**できたことです。変化することは、積極的にコミュニケーションをとる方はなかったですが、意図的にすることで多少でも積極的にできたことです。常に同じことをやっても違う視点で見える大事さを学んだので、日常でも日々違う視点で見ることができるようになると思います。

XX年後の自分

5年後までに、自分の意志とか考えをしっかりと持っていると思います。成果発表会の準備でも結局は1つにまとめないといけないので譲るべきところがありますけど自分の意見は持っておいた方がいいと感じたので自分の意見や意思をしっかりと持っている人になりたいです。例えば、グループになって話し合いをしていて、自分とは全く違う意見だと思った時に、言わない方が話がスムーズに行くだろうと思ったり、意見を言わずにいました。ですが、インターンを通じて、**自分の意見を相手に伝える大切さを学んだ**ので、しっかりと意見を言えるような自分になりたいです。

挑戦先 (受入団体)：NPO法人 アズヴェール藤沢スポーツクラブ

藤沢市を拠点に、「フットサル」を中心とした地域密着型スポーツクラブです。青少年の健全育成、地域の方の健康増進、生涯スポーツの普及を目的とした活動を行っています。関東フットサルリーグに参戦しているTOPチームを中心に、子どもから大人まで270名ほどの方が所属し、フットサルを楽しんでいるアットホームな雰囲気な団体です。



団体のウェブサイトはこちら→



担当者：大澤 英昭さん

気持ちに寄り添った
企画づくり！

つねざわ たくま
経澤 拓真 (湘南学園高等学校2年)

活動内容：藤沢市民まつり秋葉台会場の
会場スタッフやスタンプラリー企画の考案
印象に残っている言葉：これからも頑張っ！

活動前 活動後



参加動機

高2になって、たまたま小学校の時の先生に勧められたのがはじめです。インターンという言葉聞いて興味を持ったので、やってみようと思いました。

活動中のエピソード

最初は市民まつりで来場した人たちにクイズを解いてもらう**スタンプラリーの企画**を考えたいのですが直前で台風でなくなってしまっって悔しかったし、残念でした。企画内容を考えるまでは大変でしたが、どうSDGsにからめるか、どうやってたくさんの人に来てもらうかを考えるのは楽しかったです。

挑戦できたこと

藤沢市民まつりでスタンプラリーとSDGsを絡めた企画を初めて自分で考えたことです。小さい子からお年寄りまで幅広い世代に**楽しんでもらえる企画**を作るのが難しかったです。SDGsに関する問題を簡単にして小さい子でも解けるようにしたりとか、スタンプをすべて集めた人にSDGsに関する景品を渡したり工夫をしてたくさんの人に参加してもらってSDGsの理解を深めてもらえるように企画するのが大変でした。

得られたこと・成長したこと

1から企画を考えるのは初めてだったんですけど苦手

XX年後の自分

だなどと思いました。ただ、元々目の前のこの人だっ**たらどう考えるのか**等考えるタイプなのですが、企画をしたことでより一層考えるようになりました。将来、何か企画を考えたりする時に当事者など様々な人たちに寄り添った企画を考えたりできるようになると思っています。企画を考えたいことについて客観的に考えられるようになったと思います。

以前から環境問題とかをよく考えているので、大学でも国際と環境を絡めて学びたいと考えています。**5年後**までに環境問題とかを世界規模で解決する方法を見つけれられる人になりたいです。一度世界の状況を見て、これからどうしていくのかがいいか考えたいので国際に興味があります。学校でSDGsとか**環境**についてよく触れていて、夏にビーチクリーンをしてマイクロプラスチックとかを自分でとってわかっていたつもりでした。けれど、どれだけ重大なことになってくるのかということに気づけていなくて、それを知ったのでこれから意識しないといけないなと思いました。そのためには、地球規模のことだからいろんな国の人と協力して何かをすることが必要だと思います。なので英語力も身につけたいし**解決方法も考えられるような人間になりたい**です。

挑戦先 (受入団体)：藤沢市民まつり実行委員会

2022年で47回目となる藤沢市で開催されている最も大きなイベント、「藤沢市民まつり」の企画・運営をする団体です。「藤沢市民まつり」は、伝統文化を大切にしながら新しい市民文化を創造し、市民自らが「まつり」を企画し、つくり・楽しむという精神の元、第1回から変わらずに取り組んでいます。商工会議所、商店街連合会、藤沢市、NPO、市内4大学の学生と、様々なメンバーが主体となり活動をしています。



団体のウェブサイトはこちら→

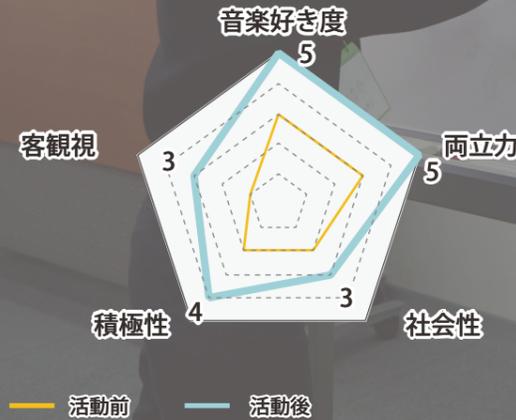


担当者：桜井 光さん

縁の下の力持ち

きたみ はるか 北見 陽香 (産業能率大学3年)

活動内容：イベントの企画・運営
印象に残っている言葉：チラシ作りは情報載せるだけではなく、イベントに参加してメリットがあることを伝えないとイケない



電子楽器アルミン 初体験



本番前の打ち合わせでの一コマ



クリスマスイルミネーションのイベント 寒かった…



学童への訪問演奏にてサポートもしました

参加動機

大学のイベントやサークル、ゼミ活動がコロナの影響で縮小されて、思い描いていた大学生活が送れていませんでした。そうした中で、大学でのインターンの募集を見かけて興味を持ちました。大学1年生の時の授業で、「NPOやボランティアは社会貢献だけでなく、自分のためにもなる(人とのつながりや自分がやりたいことの実現ができる)」と学んだことを思い出して、参加しよう決めました。

活動中のエピソード

まず、初めてリーダーとして企画・運営した「藤沢市民まつり」が台風で中止になったことが一番衝撃的なエピソードです。その企画のチラシ作りには1か月かかり、完成した時の達成感やチラシ作りの難しさを知ることができました。また、ほかのイベント当日にはチラシを配って呼び込みをしました。会場は奥まった場所だったのでやや入りづらい雰囲気でしたが、チラシを配ったことでお客さんが来てくれたのがすごく嬉しかったのを覚えています。

挑戦できたこと

この活動に参加すること自体が挑戦でした。半年間という長期の活動で、就職活動やアルバイト、大学の勉強もある中で両立できるか不安でした。また、成果発表会

得られたこと・成長したこと

では副リーダーにも挑戦しました。今までまとめ役をあまりすることがありませんでしたが、与えられた仕事を行うだけでなく、他のワカモノの様子を見ながら仕事をすることができました。

人とのつながりが増えたのは大きな収穫でした。普段の大学生活では同じ年や先生くらいしか話す機会がありませんでしたが、このインターンでは高校生から大学生の、様々な分野で活動している人と繋がることができました。成果発表会後には、ワカモノの皆と関わりをつづけたという話をしていました。今後もこうした活動に携わって、新しいものを得たいと思っています。また、インターンを通して、「やってみると意外とできるかも!」と思うことがたくさんありました。今までは、考えて考えて結局やらなかったり、後回しにしてしまったりすることが多かったのですが、前よりは積極的に素早く行動できるようになったと思っています。

XX年後の自分

1年後、社会人になってもこのインターンできた繋がりがからイベントに携わりたいです。今回のインターンの活動先である「おととき♪」にも、今後も関わり続けていきたいです。

#挑戦先(受入団体):おととき♪

地域と音大生(卒業生も含む)をつなぐことを通じて、地域で音大生や若手演奏家が活躍する社会を目指しています。具体的には、自主公演の企画運営、学童や保育園などでの訪問演奏、地域イベントへの参加などを行っています。イベントの実施に合わせ、集まれるメンバーが協力して行っています。藤沢を中心に各地で活動中です。



団体のウェブサイトはこちら→

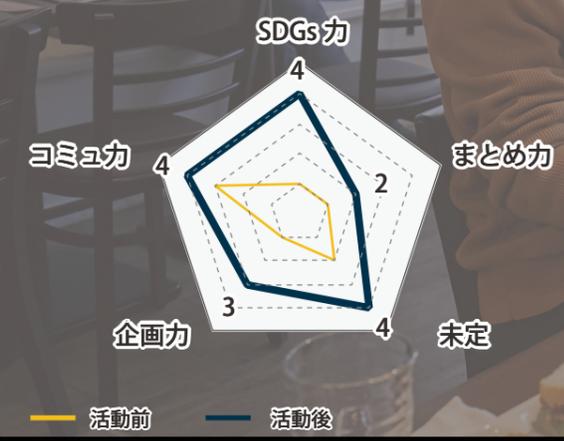


担当者:佐久間 恭子さん

繋げたい！繋がりたい！

ふじしま かずと
藤嶋 和音 (東海大学3年)

活動内容：湘南SDGsネットワーク内での
イベントの企画・制作
印象に残っている言葉：NPOに関わる活動を
今後も続けてほしい



参加動機

大学のゼミの先輩から紹介してもらいました。元々、地元の綾瀬市でNPOに携わっているので市民活動自体に興味がありました。しかし、地元が好きで地元ばかりに居るので、お隣の藤沢市の市民活動の様子が知れると思って参加しました。

活動中のエピソード

今まで生徒会活動などで既にあるイベントをアレンジすることはありましたが、SDGsの新しい企画に携わることになり、「無いものを新しく作る」ことの大変さを実感しました。誰を呼び、どんなことを手伝わってもらうかなどを一から考えることで、自分の知らなかった世界を経験できて楽しかったです。また、藤沢市市民活動推進センターには多様な人が出入りし、たくさんの支援の情報があつて、その情報が必要としている人が多くいることも感じました。今回の活動は主に藤沢駅周辺だったので、藤沢市内の他の場所にも足を運んでみたい

挑戦できたこと

名刺交換をしたことです。企業インターンだと学生が名刺交換することはないので、SDGsのイベントの中で活動をしているメンバーとして名刺交換ができたのは嬉しかったです。また、SDGsキックオフミーティ

得られたこと・成長したこと

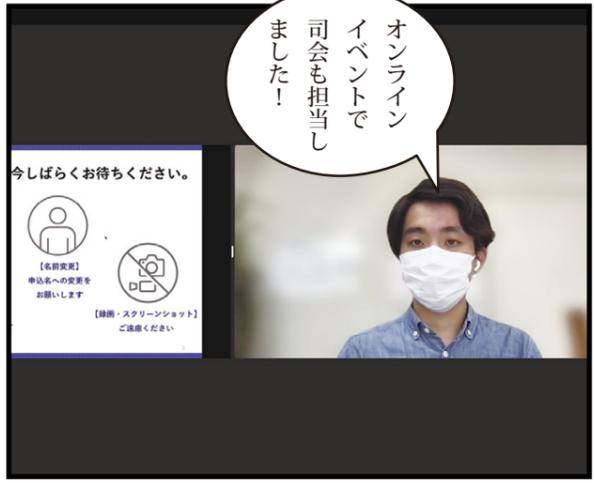
これまで自分が楽しいと思うことばかりやってきたの

かのために活動も大事

とがなかったのですが、今回の活動を通して身近なものとして考えるようになりました。一緒に活動をしていた方々はSDGsに詳しい方ばかりで圧倒されることも多くありましたが、だからこそ「自分も頑張らないと」「やりたいことに熱中できる人になりたい」と感じることができました。

XX年後の自分

20年後、綾瀬市以外で働いていたとしても、今と変わらず地元根付いた活動をしていきたいです。地域のために活動している人達や好きなことに全力で取り組んでいる人達の姿を見て、そう思うようになりました。また、この活動を通して、ワカモノの笹井さんをはじめ、藤沢好きな人とたくさん出会い、藤沢の見方も変わりました。



#挑戦先(受入団体): 認定NPO法人 藤沢市民活動推進機構

まちづくりや市民活動支援などを行っている団体です。2022年8月に発足した湘南SDGsネットワークでは事務局としてNPOのSDGsの取組みを企業や学校、地域とつなぎ、SDGsの行動を実行するプロジェクトを企画しています。また、2023年11月には、新たに“障がい者の街アート”を藤沢駅前広場とメタバースの展示場に展示するイベントを開催します。



団体のウェブサイトはこちら→

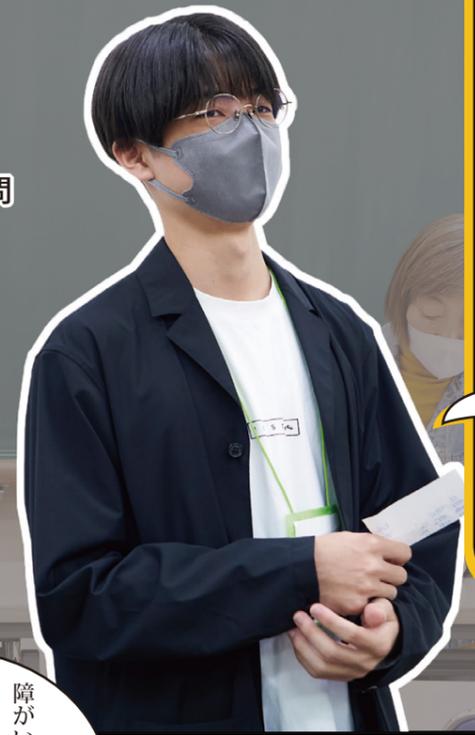


担当者: 五十嵐 めぐみさん

Trial & Error

しのづか じょう
篠塚 丈 (湘南学園高等学校2年)

活動内容：レッスンでの裏方のサポート、
団体のPR動画のための記録
印象に残っている言葉：障がいを持った方に質問する時は、答えやすいように工夫した方が良い



障がいを持った方と、その親御さんとの交流イベントも楽しめました！



参加動機

このインターンを始める前に別のインターンをやっていた、それが終わったタイミングでこのインターンを友達に勧められて参加しました。あとは、**将来看護師になりたい**とあって実際に役に立ちそうな団体とマッチングしてくれるということだったので参加してみました。

活動中のエピソード

大変だったことは、最初のころは、団体メンバーのみなどと接することが大変でした。活動をはじめた頃は自分には障がいがないので**無意識に線を引いていました**。自分と相手は違うと思って、自分で自分と相手の間に線を引いたのに、その線を消すということが大変でした。その線を消すのに1か月、行きはじめて3、4回の時にその線を感じなくなりました。楽しかったことは、打ち解けてきてハロウィンの時に仮装をしてきたメンバーがいて衣装を見せてきてくれた時に普通に会話をしていることがシンプルに嬉しかったし、楽しかったです。

挑戦できたこと

今まで気にしていなかったことを気にするようになったということです。細部まで自分で意識つけて話し方や接し方など全部を意識的に気にして活

動していました。

得られたこと・成長したこと

ワカモノの中に元々の友達がいたので楽しかったです。大学生と話す機会があつて大学のことを話すことができました。大学生だからできることや平日に活動している人もいて、これから大学受験を受ける身からしたらとても役に立ちましたし楽しかったです。自分の中で意識改革ができるようになったことは得られたことだと思います。無意識にやっていたことを意識的にやることはこれからも役立つ能力だと思います。変わったことはコミュニケーションのとり方です。今までは自分のペースで話をしていました。相手のテンポに合わせて話をしたり相手に合わせた話題で話を聞いたりできるようになりました。

XX年後の自分

8年後、看護師になって病院勤務しているだろうと予想しています。病院の患者さんや医者など、色々な人と仲良くできるようになりたいです。看護師になりたいと思っただけは祖母の影響です。祖母のように災害が起きたときに被災地に行って人助けができる人になりたいと思います。看護師になることを目指しています。看護師になったら、このインターンで身につけたコミュニケーション力を生かせばいいなと思いました。

挑戦先 (受入団体) : NPO法人 ドリームエナジープロジェクト

ダウン症や自閉症など知的ハンディのある若者たちの「学びと体験の場」として、歌やダンス、美術、コミュニケーションなどのレッスンを行っています。また、「命」や「共に生きる」をテーマにしたオリジナルの演劇を開催。彼らの個性を活かした「表現」を通して、より深く観る人の心に届くようにと心掛けています。



団体のウェブサイトはこちら→



担当者：内海 智子さん



ちっちゃくてもおともだちと一緒に頑張りました！

小さい みあん
笹井 美杏 (國學院大學1年)

活動内容：イベントスタッフ、取材、チラシ作りなど
印象に残っている言葉：イベントスタッフ時は、後で見返りができるよう随時記録写真を撮っておいてね！

身長 152cm
ともだち 3 4
ふじキュン♡マニア度 3 4
リーダーシップ フォロワーシップ
活動前 活動後

参加動機

「チャンスがあったらなんでも参加する」という癖があるので、事務局から声をかけてもらった時にチャンスだと思って参加しました。インターンシップには、堅苦しい・きつちり・就職活動の一環であるというイメージがありました。しかし、このプログラムでは、他のワカモノやサポメンと一緒に活動できたり、成果発表会を作り上げたりと、**様々な経験ができる**ところに魅力を感じました。

活動中のエピソード

「せっかくの機会だからなるべく多くのことを吸収しよう」と思って、できる限り参加するようにしていました。しかし、途中で体調を崩すことになってしまいました…。それでも、**できる範囲で活動を続けられる**ように様々な対策を立ててくれたりと、無理せず活動ができるよう団体の方がサポートしてくれました。活動当日に体調が悪くなり、連絡を怠ってしまった時がありました。恐る恐る電話をしたら、最初に「大丈夫だったか?」と心配してくれて、とても温かいと感じました。

挑戦できたこと

藤沢市民まつりの当日、いきなりボランティアリーダーに任命されたことです！他のボランティアのまとめ役として、人員配置や時間の管理などを行い

ましたが、年上の方が多かった中で、指示出ししないうけないのが大変でした。

得られたこと・成長したこと

何かミスをした時に活動先の方が助けてくださって、その度に「すみません」と謝っていると、「謝る必要ないよ、上には迷惑をかけてもいいから、その分次の世代のためにやってくれればいいよ」と声をかけてもらって、すごく納得しました。自分の経験を次の世代に伝えていこうと思うようになりました。また、成果発表会を通して0から1をつくる経験がすることができて、もつと新しい活動をつくってみたいと思うようになりました。そこで、大学で学生**団体を立ち上げる**ことになりました！元々やりたいことでしたが、インターンの経験がきっかけで、より前向きに行動に移すことができました。

XX年後の自分

3年後の大学卒業時に、一緒に活動できると**ともだちを千人**つくる！今回の活動中に名刺をもらうことがありましたが、積極的に人との繋がりを作っている方々の姿をみて、自分もそうなりたいと思うようになりました。色々な人と繋がって、色々なところでその繋がりを活かしていきたいです。



#挑戦先(受入団体)：認定NPO法人 藤沢市民活動推進機構

私たちは「NPO(非営利組織)を支援するNPO」として、市民活動を支援することを通じて、まちを盛り上げるための活動をしています！また、まちづくりには、NPOだけでなく様々な組織が連携することが大事です。推進機構ではまちの活性化事業も進めているほか、NPO・行政・企業・学校等との連携・協働の支援も行っています。



団体のウェブサイトはこちら→

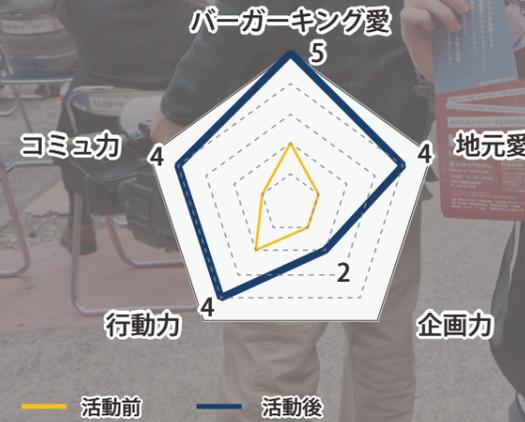


担当者：堀 千鶴さん

挑戦から挑戦へ

もりた てっぺい
森田 哲平 (N 高等学校1年)

活動内容：ブルーカーボンの知名度を上げる
ツアープランを企画～実践
印象に残っている言葉：プレゼンでは台本よりも、
自分の気持ちや想いを大事にして伝えたら良いよ



参加動機

兄の友達の大谷さん(21年度ワカモノ)に誘ってもらって、**時間もあるので何かしらやりたい!** と思ったからです。人見知りなのでコミュニケーション力を少しでも高めたいと思って参加しました。

活動中のエピソード

「トライアングルラボ」のプロジェクトでは、どう参加者に学びながら楽しんでもらえるかを考えるのが大変でした。悩んだ末、体験メインの内容で企画をつくりました。1月上旬のモニターツアーでは、小学生の子連れの家族が多く、楽しそうに学ぶ姿を見られて嬉しかったです。また、猿島の「Sense Island」という夜の芸術祭の準備では、島に街灯がないため懐中電灯を配りました。懐中電灯の白色の光が雰囲気壊してしまうので、オレンジ色のフィルムをライトに貼る作業を約**100個、手作業**で行いました。活動中は会議が多かったので、このような単純作業ができたのはとても楽しかったです。

挑戦できたこと

猿島行きの船を行っている企業「トライアングル」の**社長にプレゼンテーション**をしたことです。正直、最初は断ろうと思いましたが、普通はできないからと思って挑戦しました。学校の授業で発表の練習はし

得られたこと・成長したこと

人見知りなので、最初は知らない人と会うことに緊張していましたが、色々な人と関わる機会が多かったので、だんだん慣れました。また、他のワカモノとは成果発表のための会議で、オンラインだったため話をしづらいくともありました。自分含めて意見がなかなか出ず、行き詰まることもありましたが、最後まで協力することで良いものを作れて、良い経験になりました。また、**相手の話をしっかり聞く**こうと思うようになりました。今後の学生生活や社会人になってからも活かしたいです。この活動に参加しなかったら出会えなかった人との繋がりは、どこかで心の支えになったり、また別の機会と一緒に何かできたりすることにつながると思います。

XX年後の自分

6年後、任天堂に就職したいです！元々ゲーム好きなので、プログラミングを使った仕事をしたいです。**チームでの仕事**になると思うので、コミュニケーションは欠かせない力になると思います。

挑戦先 (受入団体) : NPO 法人 横須賀創造空間

横須賀・三浦半島エリア等に「人を呼ぶ」「魅力を発信する」「人々の交流を促す」ために活動する団体です。協働や交流を通じて地域社会の発展に寄与することを目的としています。“場”としてのコワーキングスペース「ヨコスカテラス」(京急汐入駅近く)を活用し、地域内外の様々な関係者と協働した事業を展開しています。



団体のウェブサイトはこちら→



担当者: 亀崎 昌義さん

動け！自分！

いしぎ しおり 石崎 栞理 (湘南学園高等学校2年)

活動内容：子どもの見守りサポート、畑での活動、
団体PRのパネル作り
印象に残っている言葉：大学に入った後で休学をしても、
海外留学に行っても、どの選択肢をしても失敗じゃない



参加動機

小学校の先生に教えてもらいました。活動が2月まであつて受験大丈夫かなと思いましたが高2の時にいろいろなことをしたかったので応募しました。

活動中のエピソード

団体の活動が平日だったのであまり参加できず悔しい気持ちがありました。やっと行ける時が来てもコロナになっていけなくなってしまい、団体内のやりとりを見て羨ましいと思っていました。久しぶりに参加したときに畑に行きました。最初は不安でしたがすごく優しくしてくださいまして嬉しかったです。

挑戦できたこと

成果発表会の準備で広報をやったことです。正直自分はセンスがなくて、自分がチラシを作るとは思ってなかったのですが、自分のためになると引き受けました。サポートメンやワカモノが色々な意見を出してくれて、完成できよかったです。

得られたこと・成長したこと

団体では不登校で悩んでいる人を支援する活動をしていたので、楽しいことばかりを考えるだけではなく、悩んできた人たちが助け合っている所で彼らがどういう気持ちだったのかを知りたくて参加しました。私としては

小沼さんに出会えたことがすごく大きく、そこで視野

が広がりました。様々な人の悩みに対して助け合っている団体が存在しているかもしれないと考えられるようになったことが私の人生を豊かにしてくれると思います。それからLINEで酒井さん(サポートメン)が私をメンションした時に@しおり「ちゃん」とつけてくれたことがすごく印象に残っています。そういう小さい気遣いで相手の捉え方が違うと思うので、絶対忘れません。また、相手に空いている日にちを伝えるときに時間も一緒に伝えるといいよと教えていただいていた確かに私も後輩と連絡をして空いている日にち聞いたりするときに、日にちを聞いてそのあとに時間を聞くこと2度手間になってしまっので。これも一つの学びでした。

XX年後の自分

私の今の目標が大学在学中にやりたいことを見つけてあげること。私は社会問題に関心があるので、10年後社会の役に立つ活動をしていきたいです。今私が興味を持っている性教育に関わることで嬉しいです。この活動を通して、他人任せではなく自分から何か行動しないと将来につながらない、また、得られるものも得られないと思いました。もともと「他人ごとを自分ごと」というのが私のモットーなのでインターンを通してより一層強く思いました。

#挑戦先(受入団体)：ホームスクーリングで輝くみらい タウンプロジェクト

学校に行っても行かなくても、子どもたちに興味のあることを安心して思いっきり学んでもらいたいとの想いから、家庭を起点として地域の色々な所を活用して学ぶ「ホームスクーリング」をしやすいまちを作り、ホームスクーリングの家庭と地域をつなぐ活動を広げています。具体的には、親子の交流の場作りや子どものアート作品の展示企画、畑活動など、地域の方の協力を得ながら繋がりや体験の機会をつくっています。

団体のウェブサイトはこちら→



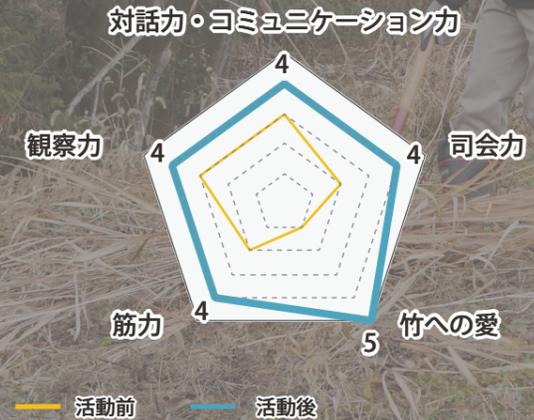
担当者：小沼 陽子さん

やってみよう
知らない世界がそこにある



みやかわ かいせい 宮川 快晟 (湘南学園高等学校2年)

活動内容：自然公園などの整備（竹割等）、自然観察や田植え
印象に残っている言葉：活動していて心地よくないと思ったらやめてもいい、自分が心地よく感じられる場所を探して



参加動機

もともとの紹介は小学校の先生にもらったのがきっかけです。でも、ちょうどその特別のインターンが終わった時期だったのでそのままの流れで友達（石崎さんや経澤くん）を誘ってこのインターンをやってみました。

活動中のエピソード

田んぼに入ったときに田んぼ自体は小学生ぶりでわくわくしました。長靴を団体さんに借りたのですが、かかとに穴が開いていて長靴の意味あるのかなと思いましたが（笑）。最初に団体さんに穴開いてないか聞かれて大丈夫ですと答えたのですが穴が開いたのでやっぱり穴開いていましたと伝えました。

挑戦できたこと

受入担当者の高橋さんが活動するときは車で送り迎えしてくださっていたのですが、車内での会話を積極的にするようにしていました。もともと、高橋さん自身とてもたくさん話をしてくださる方だったので自分から話すことは少なかつたかもしれないですが、自分から話すときは何か質問をしたりするということが苦手だったので意識して話すようにしていました。

得られたこと・成長したこと

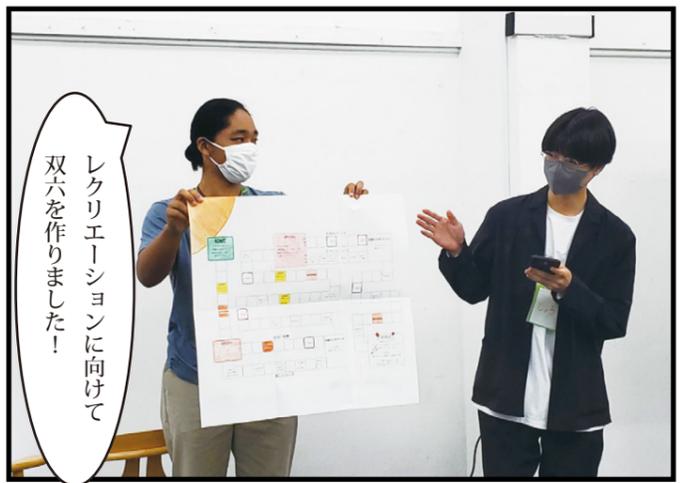
得られたことは、パラメーターにも書きましたが観察力です。活動中はチェンソーや機械をたくさん動かしていたのであまり喋ることができなくて直接手取り足取り教えてもらえなかったですが、その自分分周りを人を見てどう動いているのか、何をしているのかを観察して活動することが多かったのが観察力が得られたと思いました。習い事でフラダンスをやっているのですが、その先生も動きを見て覚えてという先生なのでそういう面では意味は違いましたけど慣れてはいました。学校でも似たようなことがありましたが、それを実際大人の人に対しても意識して接したのは初めてでした。

XX年後の自分

23年後、口だけではなく、行動で伝えられるようになりたいです。背中をかたるような感じの人になりたいです。そのためには、一つの分野だけでなく色々な分野のことを経験し、色々な人とつながって色々な価値観なども変わるかもしれないので経験を積みたことです。このインターンには先輩や先輩や色々な人がいてそこから得られることがたくさんあったので、これからも積極的に色々なことに参加することが大切だと思いました。



ワークシートを使って目標設定！



レクリエーションに向けて双六を作りました！



小学生ぶりの田んぼ！



成果発表会の司会 噛まないよう頑張りました

挑戦先 (受入団体)：NPO 法人 藤沢サンクチュアリ

大庭地区と遠藤地区（健康の森）を中心とした藤沢市内の緑地で、ササ狩りや竹の伐採、危険木の処理を行って、子どもたちが自由に遊べる里山・虫取りや魚取りが自由にできる里山を目指して保全活動を行っています。自然の中での遊びを通じて、大人と子どもが交流する藤沢の谷戸で、未来の子どもたちに自然を残す活動をしています。



団体のウェブサイトはこちら→



担当者：高橋 和也さん

活動期間中は受入団体での活動に加え、ワカモノ間のつながり強化や活動に役立つ知識づくりなどを目的にイベントを開催しました。「ワカモノ定例会」と「レクリエーション」を、対面とオンラインの両方を利用して開催しました。

ワカモノたち自ら企画したゲームを実施した際には、互いに協力することを通じて、仲が深まる様子が見受けられました。



ワカモノとサポメン、事務局の初顔合わせの場。全員で自己紹介をし、事務局からプログラムの概要やインターン中の心構えをレクチャー。ワカモノには活動に向けて目標設定をしました。



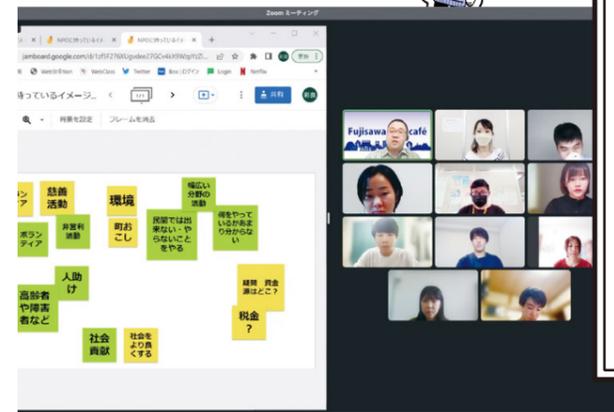
7月 オリエンテーション

10月 レクリエーション



第2回定例会で考えた企画の発表の日！Aグループではペーパータワーづくり対決と伝言ゲームを、Bグループでは手作りのクイズすごろくをしました。どちらもとても盛り上がりました。振り返りでは、両グループの良かった点や課題点について話しました。

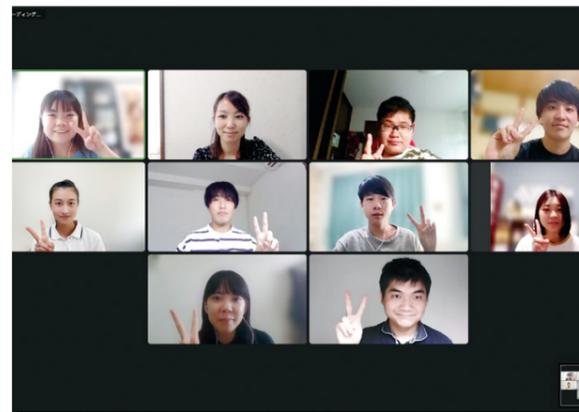
8月 第1回ワカモノ定例会



サポメンや事務局を交えてNPOに持っているイメージについてグループに分かれて話し合い、発表しました。その時に出た話題を元に、講師からNPO講座をしてもらいました。講座の後はオンライン交流会を楽しみました。

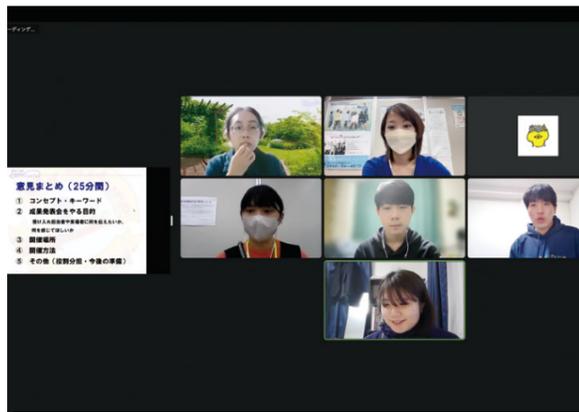


9月 第2回ワカモノ定例会



アイスブレイクからグループに分かれてテーマトークを実施。レクリエーションの企画についてグループごとに話し合いました。この時考えた企画はもう一方のグループには当日まで秘密です。

11月 第3回ワカモノ定例会



成果発表会の企画が始動！サポメンからこれまでの発表会の様子を話を聞き、今年はどうな成果発表会にしたいか、アイデア出しを行いました。アットホームな雰囲気にしたという意見が多数出ていました。

11月 第4回ワカモノ定例会



LOGWAY BESS 藤沢（住宅展示場）を訪問しました。地域に根差した取り組みやその想いをうかがいました。その後は、お楽しみとして薪割りや焚き付けの体験、ログハウスの見学、薪ストーブでマシュマロを焼いたり、焼き芋をしたりと、楽しい時間を過ごしました。

12月 第5回ワカモノ定例会



オンラインと対面のハイブリッド形式で成果発表会に向けての話し合いをしました。対面、オンラインに関わらず参加しているワカモノ全員で意見を出し合い、話し合いが進んでいました。

1月 第6回ワカモノ定例会



最後の定例会では活動の振り返りを実施。インターンスタート時に立てた目標の達成率や活動を終えてこれからは活かしたいことなどを発表してもらいました。発表した内容についてはワカモノからひとつずつ貰いました。

2月 成果発表会リハーサル



成果発表会当日に使用する会場を下見しました。その後、機材の接続テストや当日会場で流す動画の撮影等を行いました。当日に向けて気合いが伝わってきました。

2月 成果発表会



ワカモノ9名の約半年間の成果を発表する日。ワカモノが内装、発表内容、形式など全て企画し創りあげました。成果発表会について詳しくは次のページをご覧ください。

続く

サポメンによるレクリエーションのしおり！

レクリエーション

目的

- ワカモノ同士の交流
- 活動の楽しさを伝える
- 活動の魅力を伝える
- 活動の魅力を伝える

概要

開催日時 2022年10月9日 13:00-16:00

主催 認定NPO法人藤沢市生涯学習推進センター

場所 フラワーランド

本日のスケジュール

- 13:00 集合
- 13:15 ワカモノの自己紹介
- 13:30 自由時間
- 13:45 交流時間
- 14:00 ワカモノの発表(1チーム)
- 14:15 発表
- 14:30 発表
- 14:45 発表
- 15:00 発表
- 15:15 発表
- 15:30 発表
- 15:45 発表
- 16:00 解散

本インターンプログラム内で最大のイベント、成果発表会を2月に実施しました。
約半年間の活動期間で得られた成果を、ワカモノそれぞれが自身で工夫しながら思い思いに発表しました。観客が対面でもオンラインでも参加でき、楽しめる企画の考案をワカモノ中心に行い、当日の発表に臨みました。

準備編



リハーサル中



どんな発表会にするか
たくさん話し合いを重ねました



何度も機材テスト!



風船や、インターン活動中の写真で会場を装飾!



可愛いチラシができました!



サポメンが
企画のサポート!

地域でつながるワカモノ×NPOインターンシッププログラム2022

成果発表会

高校生から大学生のワカモノ（インターン生）がNPO・市民活動団体で半年間、団体の一員として取り組んできた活動の最大成果を発表いたします！トーク形式で確かめのある雰囲気でお届けいたしますのでご興味のある方は是非お越しください。

2023年 **2月19日** 14:30~17:00 (開場14:15)

開催場所：フジサワ名店ビル 6F Aホール / オンライン配信 (〒251-0055 神奈川県藤沢市南藤沢2-1-1)

参加費：無料

お申し込み：お名前・ご所属・TEL・E-mail・参加人数・参加方法 (会場orオンライン) を下記お問い合わせ欄にご連絡ください。

主催・お問い合わせ
「地域でつながるワカモノ」NPOインターンシッププログラム
藤沢市民活動推進センター (TEL: 0466-54-7791)
TEL: 0466-54-4510 / 070-2193-4099 (西尾)
E-mail: npoipg@fnpn.jp

QRコード

ホームページはこちら!

当日編



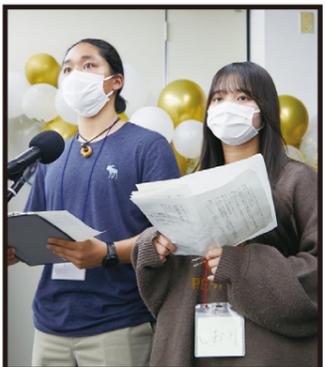
OBOGも手伝いに
来てくれました!



理事長挨拶



2チームに分かれて
すごろく!



最後に全員で集合写真!

ご協力いただいた皆さま
ありがとうございました!

トーク形式でインターンで経験したことや思い出を語る「美杏快覧の部屋」、ワカモノ達が作った「ふじさわクイズすごろく」を行い、参加者の方も交えて行う体験型の成果発表会となりました。広報や司会など、役割ごとに事前準備で行ってきたことの紹介をビデオメッセージで紹介するなど、ワカモノの想いが詰まったアットホームな場となりました。

開催概要

日時：2023年2月19日(日) 14時30分~17時

会場：フジサワ名店ビル 6階 Aホール・オンライン (Zoom)

内容：美杏快覧の部屋 (トーク形式による発表) / ふじさわクイズすごろく (参加型のオリジナルすごろく) / 受入団体のコメント / ビデオメッセージ (休憩中)

来場者数：39名 (スタッフ含む)

Q 活動を通して気付いた「社会課題」や「地域課題」はどんなこと？ ワカモノ

- **たくさんの人**がさまざまな立場で、数多ある課題について取り組んでいることをより深く**理解**する事ができた。また、課題を意識しないで活動を行なっていて、それが**何かの課題解決**に繋がっているという事が多くあるように感じます。
- 何か(社会貢献や課題の解決を)してみたいが、**やり方がわからない**と言う人がいる事がわかった。
- 地域や市民活動などに、興味のある人が興味を持って何かに**参加する機会**は割と**たくさんある**(けれど、興味のない人が興味を持つようになる機会はまだまだ少ない)ということ。

Q 活動中に挑戦したことは？ ワカモノ

- 人がやっていることを**マネ**して、**自分から動く**こと！
- 普段関わることがない人との**積極的なコミュニケーション!**
- **はじめて**、企画立案から当日の運営までを**主導**でやった！
- 民間企業の**社長**に自分たちの企画を**プレゼン**した！

本ページではアンケート結果を紹介していません。ワカモノ、受入団体、共に活動に参加したことで得られた成果があり、この活動が新たな気づきのきっかけになったことが伺えます。活動に参加したメンバーの声をご覧下さい。
(※) 回収率は94.4%です。全体数について、ワカモノはn119、団体はn118となります。

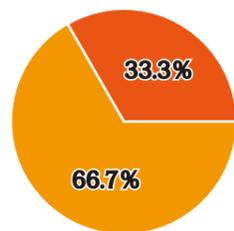
Q 活動を終えて、ワカモノにどのような変化がありましたか？ 受入団体

- 今まで出会っていなかったタイプの学生と活動したことにより、自分(ワカモノ自身)の**得意分野**についての**気づき**があり、**関わり方**に変化があった。
- 指示された作業にどのような**意味**があるのか、**考えて動ける**ようになった。指示から読み取れるまではいなくても、質問や会話を通じて**ワカモノ自身**で考えて行動できるようになったと感じている。
- (変化は) そう**簡単にはあらわれない**と思っているので気にしていません。**この先**どこかで彼の**役に立てばいい**と思っています。

Q 受入を通じて、組織内にどのような変化がありましたか？ 受入団体

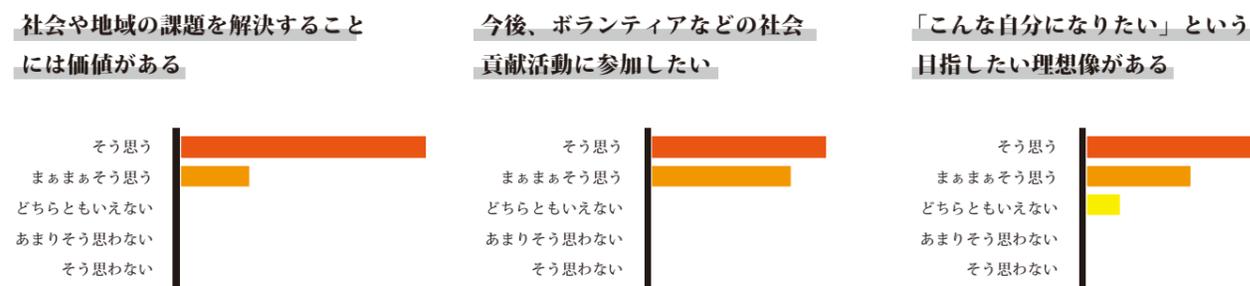
- ボランティアチームの**世代交代**が進み、**フレッシュ**なメンバーで運営ができた。受け入れを続けることで、作業の**効率化**や**単純化**が進み、人依存にならないような体制が整ってきた。
- これまで**手が届いていなかった**ところに着手することができた。メンバーとは**違った視点**から、多くの**アイデア**を出してくれたのでこちらもとても勉強になった。
- **若者の感覚**を組織にも取り入れることができた。

Q あなたは、本プログラムを他のワカモノにお勧めしたいと思いますか。 ワカモノ



- (合う合わないがあると思うが) 自分はここで新しい**繋がり**や**出会い**があったため、その発見を他の人にもして欲しいと思ったから。
- さまざまなことの**キッカケ**になるような仕組みがたくさん施されていると感じるから。

Q インターン活動を終えて、現在のあなたの考えに一番近いものは？ ワカモノ

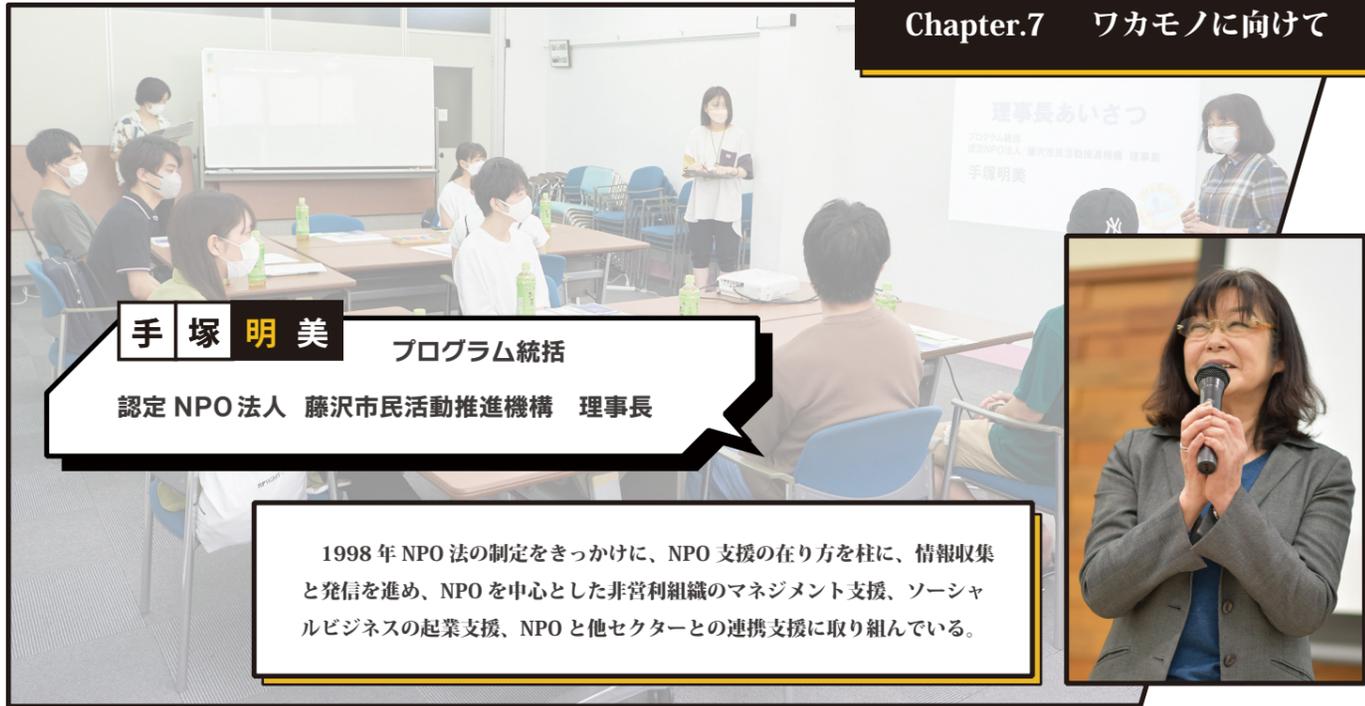


Q プログラムへの感想 受入団体

- 受入団体として、本プログラムに関わることができてよかったです。**たくさんの気づき**を得ることができました。
- 高校生や大学生など**若い人**が関心を持って**関わってくれる**ことはとてもありがたいです。
- バイトでもなく、必修科目でもない体験を少し長い期間体験する事は特別に**自分が選んだこと**だと思うので、この感覚や習得した事柄を今後に活かしてもらえれば良いと考えます。

ご協力ありがとうございました!





手塚明美 プログラム統括
認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構 理事長

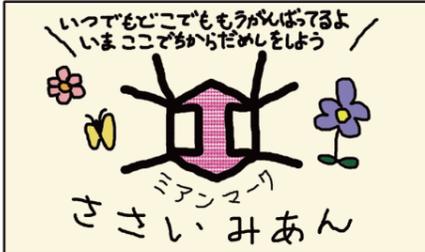
1998年 NPO 法の制定をきっかけに、NPO 支援の在り方を柱に、情報収集と発信を進め、NPO を中心とした非営利組織のマネジメント支援、ソーシャルビジネスの起業支援、NPO と他セクターとの連携支援に取り組んでいる。

ワカモノから、未来のワカモノに向けて寄せ書きメッセージを書いてもらいました。何か始めたいと思っている方は、ぜひこのプログラムに参加してみませんか？

ワカモノのみんな!!
自分のやりたいことを
全力で取りこんで、全力で
たのしみー!!
いんぎしおり♡

向來も
挑戦して
やってみよう

ワカモノのみなさん!
自分の殻を破って、
たくさん楽しめ!!
めちゃかかせい



なほにごと
早く早々にやるよ

このイベントでは、市民活動にふれることが出来るだけでなく、同世代のメンバーとともに企画を考へる力なども身に付きます。是非参加してみてください。

成長のチャンス
苦手なことでも
挑戦してみよう

少しでも述べたら
挑戦してみよう

苦手な事でも
チャレンジしてみよう

- 協力 藤沢市市民活動推進センター・藤沢市市民活動プラザむつあい
- 受入団体 (N) アズヴェール藤沢スポーツクラブ おととき♪
(N) 横須賀創造空間 (N) ドリームエナジープロジェクト
(認 N) 藤沢市民活動推進機構 (N) 藤沢サンクチュアリ
藤沢市民まつり実行委員会 ホームスクーリングで輝くみらいタウンプロジェクト
- 広報協力 神奈川大学 山岡 義卓先生 慶應義塾大学 櫻田 周三先生
私立大学 柴田 匡啓先生 湘南学園中学校・高等学校 吉川 謙太郎先生
東海大学 前田 成東先生 湘南学園小学校 中許 竜宏先生
東海大学 藤巻 裕之先生

地域でつながるワカモノ×NPO インターンシッププログラム 2022 活動報告書
発行：2023年5月 編集責任：認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構 理事長 手塚 明美
事業担当：西尾 愛 桜井 光
制作協力：金子 知史 (取材・文章執筆) 神藤 夏美 (取材・文章執筆) 山本 千晴 (文章執筆) 相原 美月 (文章執筆)
中村 渚 (アンケート集計) 酒井 彩良 (デザイン) 小島 奈々 (表紙デザイン) 大谷 脩太郎 (動画制作)
佐久間 恭子 (文章執筆・デザイン)
発行所： 認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構 〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢 577 寿ビル 301 号室
電話：0466-53-7366 ホームページ：https://f-npocafe.or.jp メール：npoipg@f-npon.jp

本書の一部あるいは全部について、無断で転載・複製することを禁じます。商業目的による本書情報の利用を禁じます。

「地域でつながる」をコンセプトにワカモノの地域活動へのインターン活動による人材育成プログラムを始めたのは、一昔前のことです。当時、インターンシップと言えば、就業のための企業への参加プログラムで、地域社会へのアプローチを指したものではありませんでした。現在でもその意識は残っているものの、本プログラムを通過していったワカモノが、それぞれ新しいフィールドで活躍していることの報告を受けるたびに、本プログラムの成果の芽吹きを感じています。

本年度は「ワカモノの挑戦」と題し、高校1年生から大学3年生9名のインターン生が挑戦しました。OB OG 8名がサポートメンバーとして、全力でアシストしたことは言うまでもありません。コロナ禍における活動への「挑戦」から始まり、見知らぬ大人とのコミュニケーションへの「挑戦」や思ってもみなかったことへの「挑戦」など、数多くの「挑戦」を体験・実践していただきました。近年の研究によれば、実践値の積み重ねによる「デザイン思考」が、イノベーションを起こす手法になると言われています。例えば、ありとあらゆる情報が溢れている現代は情報の消費者として生活していくことになるのですが、一歩目線を遠くにおいて、情報の生産者になることができるようになると、**情報の生産者になる**ことができると、**多様化して**

いる社会的な価値への気づき生まれ、個々の差を踏まえた判断ができるようになると思われます。

本プログラムによる学びと実践が、今後の生活にどのような変化をもたらすかは今の時点では図ることはできません。いつの日にか「そういえばこんなことを大昔に体験したことがある」くらいの思い出として語られていたら、本プログラムの成果として満点の評価となると思っています。

近年、人生100年時代と言われる、人生をどのようにプロデュースするかが問われてきています。本報告書の3ページに「永遠に生きられるなら…」との問いへの回答があります。回答には、やりたいたいことが山のように書かれています。もしかしたら、永遠に生きられる未来もそう遠くないかもしれないと思いつつ、今後も実践値を積み重ね、「やりたかったこと」にしないよう、**挑戦を続けてほしい**と心よりエールを送ります。

最後になりますが、本プログラムに直接参加協力していただいた皆様、温かいまなざしで見守ってくださった多くの関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。引き続き本プログラムへのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。